

案内

大垣都市計画決定の 変更素案に関する説明会

現在、大垣駅南前地区市街地再開発準備組合が、高屋町交差点西（高屋町1丁目、桐ヶ崎町、宮町1丁目）において、再開発事業を計画されています。

この計画に合わせて、大垣駅南前地区第一種市街地再開発事業の都市計画決定の変更素案の説明会を開催します。

＊とき／7月22日(火)
午後7時～
(開場：午後6時30分)

＊ところ／市役所
8階大会議室

＊問合せ／市街地
整備課 (☎47-8406) へ



緑の募金にご協力 ありがとうございました

令和7年「緑の募金」に、各自治会をはじめ、個人・企業・団体など多くの皆さんから、579万1,796円もの募金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。皆さんの善意は、森林整備や緑化の推進などの財源として役立てられます。

詳しくは、公園みどり課 (☎47-8409) へ。

花や木への散水に ご協力を

夏は、厳しい日差しや暑さのため、植物が弱りやすい季節です。晴れが続いた日や日差しの強い日には、道路や公園に植えられている花や木にも散水のご協力をお願いします。

詳しくは、公園みどり課 (☎47-8419) へ。

海の日(7月21日)のごみ収集

問合せ クリーンセンター (☎89-4124)



収集日	もえるごみ	もえないごみ ペットボトル	プラスチック製 容器包装
7/21 (月・祝)	収集します (月・木の区域)	収集を休みます この日が収集日の区域は、 7/24(木)に収集します	

8月1日から、プラスチック使用製品 廃棄物などの回収拠点を増やします！

クリーンセンターで実施しているプラスチック使用製品廃棄物などの回収を、8月1日から新たに市内の2拠点でも行います。
詳しくは、クリーンセンター (☎89-9278) へ。

▶新たな回収場所／上石津地域事務所1階 市民福祉課前、
墨俣地域事務所1階 階段脇

▶回収対象／・プラスチック使用製品廃棄物(ハンガー、
定規、クリアファイル、CD、食品保存容器など)

※素材が全部プラスチックで、汚れが付着していないもの、1辺の長さがおおむね30cm程度まで(ハンガー除く)などの回収の条件がありますので、詳しくは市HPをご確認ください。

・プラスチック製容器包装のうち、袋類、チューブ類、ラベルなど

▶回収日時／平日の午前8時30分～午後5時

▶備考／予約不要



市HP

8月1日～9月30日 北公園陸上競技場の利用を休止します

陸上トラックの一部改修工事に伴い、8月1日(金)～9月30日(火)の間、北公園陸上競技場の利用を休止します。ご理解とご協力をお願いします。

詳しくは、社会教育スポーツ課(☎47-8038) へ。



市民病院・豊田院長の 健康コラム No.16

パーキンソン病 その症状、老化ではなくて パーキンソン病かもしれません

皆さん、こんにちは。市民病院院長の豊田秀徳です。
健康コラム第16回をお届けします。

今回はパーキンソン病についてのお話です。パーキンソン病は神経の病気で、脳の中のドーパミンという物質の減少が原因で起こります。ドーパミンの分泌は、年齢とともに誰でも減少するのですが、この減少が早いとパーキンソン病になります。



ドーパミンは脳から筋肉への指令を調整し、体をスムーズに動かせる働きがあります。パーキンソン病になるとこれが障害され、歩き方が小刻みになったり、手のふるえが出たり、物を飲み込む時にむせやすくなったりします。また、便秘や頻尿、立ちくらみなどもパーキンソン病の症状です。これらが進行すると徐々に日常生活に支障が出るようになり、最終的には介助が必要となって、車椅子生活から寝たきりの状態になります。ものが飲み込めないような状態になると誤嚥性肺炎を起こしたりしますし、栄養状態も悪化します。

パーキンソン病にはいろいろな前兆があります。特徴的なのが、レム睡眠障害というものです。睡眠はレム睡眠とノンレム睡眠の2つの時間帯に分けられます。レム睡眠の時は夢を見ることが多く、普通は筋肉が緩んで体が動かさません。ところがレム睡眠障害では筋肉が緩まず夢を見ても体が動かせる状態になり、見ている夢に合わせて体が動いてしまうのです。怖い夢だったりすると、大声を上げたり、起き上がったたりすることもあります。50歳以上の方でレム睡眠障害があるとその後高率にパーキンソン病になると言われています。また便秘や嗅覚障害もパーキンソン病の前兆と言われています。

パーキンソン病の治療はL-ドーパという薬の内服が基本です。これで数年間は症状を改善し、日常生活を円滑にすることができます。ただし年数が長くなると徐々に効果がなくなり、また内服による別の症状が出てくるという問題があります。現在のところパーキンソン病の予防法はありませんが、運動をすることは予防につながると言われています。もともとあまり動かない人・体の動きの小さい人は、それによって逆にドーパミンの分泌が減るとも言われています。

パーキンソン病は見過ごされていることが多い疾患かもしれません。上記のように一見「老化現象」と思われるものが、実はパーキンソン病が原因だったということがあるわけです。おじいちゃん・おばあちゃんの動きが小刻みになり、表情が乏しくなったり、ものを飲み込むにもむせやすくなったりした時に、老化による症状だと決めつけてしまっていないか。もちろん老化による場合も少なくはないでしょうが、中にはパーキンソン病による場合もあると思います。その場合にはパーキンソン病の治療薬により症状が軽快する可能性があります。ただ、パーキンソン病にはよく似た別の病気もあり、しっかりとした診断が必要です。お家のお年寄りの方の老化が急に進んだと思った場合、かかりつけの先生に相談してみてもいいでしょう。

コラムで取り
上げてほしい話
題などは、入力
フォームへ



入力フォーム

パーキンソン病による生活機能障害度分類 (厚生労働省)

I 度	日常生活、通院にほとんど介助がいらない
II 度	日常生活、通院に部分的な介助が必要になる
III 度	日常生活に全面的な介助が必要で、自分だけで、歩いたり、立ち上がったたりできない